

臨床腫瘍学

責任者・コーディネーター	血液腫瘍内科分野 石田 陽治 教授		
担当講座・学科(分野)	腫瘍生物学研究部門、放射線医学講座、腫瘍内科学科、泌尿器科学講座、血液腫瘍内科分野、緩和医療学科、病理診断学講座		
担当教員	前沢 千早 特任教授、中村 隆二 教授、伊藤 薫樹 教授、高田 亮 講師、小宅 達郎 講師、木村 祐輔 特任教授、菅井 有 教授		
対象学年	4	区分・時間数	講義 12.0 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

臨床腫瘍学では、臓器横断的な病態や腫瘍の分子病態を学ぶことによって臨床腫瘍学の基礎および標準治療法の確立や個別化治療を理解することが求められる。

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

・教育成果（アウトカム）

臨床腫瘍学の講義を通じて、腫瘍の生物学的特徴や症候、診断法や治療法の原理を理解することによって、がん治療を効果的かつ安全に行える思考能力を身につける。

・到達目標（SBO）

1. がんの生物学的特徴を説明できる。
2. がんの緊急症・腫瘍随伴症候群の病態や治療を説明できる。
3. 細胞診・組織診の方法と適応を概説し、がんの代表的な所見を説明できる。
4. 放射線療法の原理、適応および限界を説明できる。
5. 代表的な抗がん化学療法薬について、種類、作用機序、適応となる代表的疾患、薬物投与方法、副作用を説明できる。
6. がん薬物療法の効果と毒性の評価について概説できる。
7. 緩和医療を定義できる。

8. がん性疼痛の種類と病態について説明できる。
 9. WHO 方式がん疼痛治療法を説明できる。
 10. 鎮痛薬の種類・投与法・代表的な副作用とその対策を説明できる。

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/25	金	3	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 講師	がん薬物療法 1
9/25	金	4	病理診断学講座	菅井 有 教授	がんの病理診断
10/2	金	3	腫瘍内科学科	伊藤 薫樹 教授	臨床腫瘍学の総論
10/2	金	4	腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 特任教授	各種がんに蓄積する遺伝子異常の個性とその分子診断法について述べる事ができる
10/9	金	3	放射線医学講座	中村 隆二 教授	放射線治療の総論
10/9	金	4	腫瘍内科学科	伊藤 薫樹 教授	腫瘍随伴症候群とがん緊急症について概説する
12/4	金	3	泌尿器科学講座	高田 亮 講師	がんの遺伝子異常を標的とした新規治療法について概説する
12/4	金	4	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	緩和ケア

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	入門腫瘍内科学	日本臨床腫瘍学会編	篠原出版新社	2009
参	新臨床腫瘍学	日本臨床腫瘍学会編	南江堂	2012
参	がん診療レジデントマニュアル 第6版	国立がん研究センター内科レ ジデント	医学書院	2013

・成績評価方法

統合試験による。

・特記事項・その他

授業内容
1. 腫瘍生物学
2. 主要症候学
3. がんの病理診断学
4. 放射線治療学
5. がん薬物療法学
6. 緩和医療

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC	1	講義スライド用